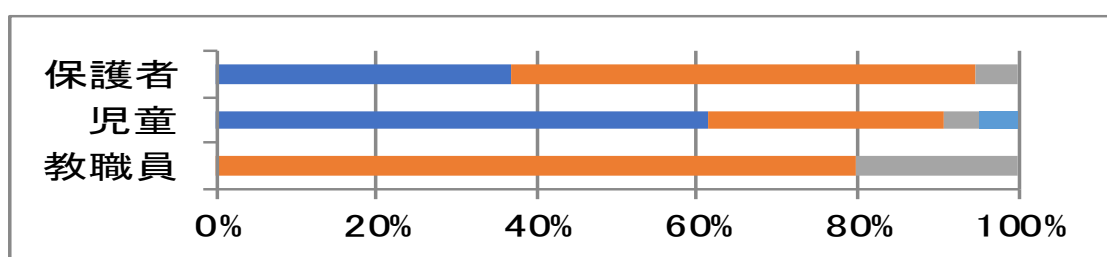


令和5年度の学校評価の結果から その5 子どもたちの「あいさつ」についてです。

子どもたちは、進んで挨拶していると思いますか。



保護者・児童は90%以上が挨拶を進んでしていると感じている。しかし教職員は80%にとどまっており、自分から進んで挨拶ができる児童の育成を目指すために、しっかりできていたら褒め、普段から意識付けできようような声かけを継続的にしていく必要がある。

5回に分けて特集しました、「本年度の学校評価の結果分析」でしたが、いかがだったでしょうか。お付き合いいただきありがとうございました。最後は、子どもたちの「あいさつ」についてです。あえて平仮名で表記するのは、大切なのは子どもの目線だと思うからです。



まず、教職員の回答ですが、これは大きな反省材料です。自分たちが指導している結果です。8割は「どちらかといえば思う」なのですが、2割の教職員はそうではないと回答しています。自分たちが指導した結果なので、「そう思う」「どちらかといえば思う」で100%を期待したいところですが残念です。子どもたちの6割はちゃんとやっていると答え、加えて3割弱の子どもが「どちらかといえば」と肯定的な意見です。しかし、約1割の子どもが、ちゃんとやっていないと感じています。ちゃんとやっていないのが、自分自身なのかまわりのお友達なのかはわかりませんが、自己評価が低い子どももいるというのが事実です。保護者の方々からは、95%の方から肯定的な回答をいただいています。しかし、5%の方は、まだまだとお考えのようです。

校長としては、元気で明るい子どもいっぱい学校を目指していますので、満足はできません。「『あいいうえお』いっぱい子ども育成」が学校教育目標で、その「あ」は「あいさついっぱい子ども」なのでから考えます。しかしながら、朝から校門の前で水やりをしていると「校長先生、おはようございます」と自分から先にあいさつをする子どもは3年前よりも確実に増えています。みんな、笑顔でのあいさつです。あいさつされる方も、普段から笑顔で子どもが話しかけてくることのできるような努力が必要だと考えています。強要されるあいさつではなく、子どもにとって自然で当たり前の行為であることがあいさつの基本になるのだと思います。(裏面に続きます)

朝から「おはよう」と家族同士があいさつを交わすことができるご家庭は、地域の方々にも先生にもちゃんとあいさつができると考えます。自らの子育てを振り返ってみても、家族の中の会話が少なかったり、お小言の方が多かったりすると、子どもは明るいあいさつをしなくなっていたように思います。我が家は子どもが小さい頃、祖父母両親兄弟と6人家族だったので、とても賑やかでした。朝から「おはよう」「いってきまーす」「いってらっしゃい」「ただいま」「おかえりー」「いただきまーす」「おやすみなさい」は毎日交わっていたように思います。今は夫婦と大学生だけなので寂しいものですが、「おはよう」「いってきます」「おやすみ」は毎日しているかなと思います。



恥ずかしながら、自宅公開みたいになりましたが(笑) 各ご家庭ではいかがでしょうか。家であいさつができる子は、学校でもできる場合が多いようです。家ではしないけれど、学校ではあいさつ名人というのはあんまり多くはないようです。地域の方々にもあいさつができるようになるとさらによいですね。毎月1日のあいさつ運動の朝には、地域の会長さん、委員さん方が多数来校されます。何十年とされておられる方ばかりです。頭が下がります。私も遠くない将来、自分の校区で活動をするのですが、本荘小の地域の方々のように子どもたちのために行動できる人になりたいと、地域の皆様の生き方に学んでいるところです。

あいさつは、人の心をつなぎます(五七五になりました 笑)。これからの本荘小学校が、もっとあいさついっぱい「あいうえお いっぱい」の学校になってほしいと思う校長先生です。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「家族で食事をすると、あいさつも」

参照：https://www.mext.go.jp/syokuiku/what/meal03_01.html

平成24年の食育白書で紹介されていました。家族で過ごすときあいさつも身につくのだと思います。家族そろって食べた場合のあいさつ(いただきます等)は7割近くがいつもするとなっています。詳しくはHPをご覧ください。

